

乗雲

寺報
第87号

H25.3.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

もし今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定のことは本当にやりたいだろうか？

昨年はMac/iPod/iPadなどのヒット商品を生み出したアップル社の創業者であるスティーブ・ジョブズ氏（11/10/56没享年55歳）が一番の話題となりました。



禅の信奉者として知られ、ジョブズ氏が師と仰いだのは曹洞宗の僧侶で加茂市出身の乙川弘文師でした。その言動には弘文師から学んだ禅的思考が随所に現れ、禅の影響を強く受けていました。この一文は多くの人に感銘を与えた、

スタンフォード大学卒業式での記念講演でのスピーチの一節です。仏教の無常観であり、「今日という一日を大切に生きる」そのことを実践されてきた人でした。

曹洞宗の開祖道元禪師さまは、「まことにそれ無常を観ずるときは、吾心の心生ぜず、名利の念起らず。時光のはなはだすみやかなることを恐怖す」とお示しです。仏教を信ずるものお互い一人ひとりも、「限りある尊い生命、大切な今」を自覚して生きていかなければなりません。このたびの授戒会は、「自分の命、生かされている命」のことを深く考え、教えていただくことができる無上の機会と言えます。ご縁をいただけると思えます。

今年には東日本大震災からまる二年、犠牲となられた方々の三回忌を迎えます。しかしながら復興は未だ進んでおりません。毎日の勤行で亡くなられた方々の供養

と被災地の復興を祈願していますが、時が経つとあの震災のこと、原発こと、昔のこのように忘れてしまいます。遠く離れていても、「いつも思う、思い続ける」ことが大切です。大勢の人がこの震災で犠牲となりました。小さなお子さんからお年寄りまで、想像を絶する恐怖が襲いました。人が死ぬということはとても悲しいことではありますが、死ぬ命をかかえているからこそ一生懸命に今を生きていることができます。今被災地では後に残った仲間が共に手を取り合い、犠牲者の思いを受けて復興に取り組んでいます。一日も早く心安らぐ日々が訪れるよう願っています。

「諸行無常」の言葉どおり、全てのことは始まりがあり、終わりが待っています。慌ただしい日常の中で過ごしていると終わることなど忘れがちですが、

もし今日が人生最後の日だとしたら、...

毎日の生活で何が大切で、何をすべきか、よくよく考えてみましょう。

平成二十五年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十四年
三回忌	平成二十三年
七回忌	平成十九年
十三回忌	平成十三年
十七回忌	平成九年
二十三回忌	平成三年
二十七回忌	昭和六十二年
三十三回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和三十九年
百回忌	大正三年

*今年の年回忌表です。正当の各家には昨年十一月に個々に通知いたしました。

*日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌となる。